

ビワマス 遡上できる米川に



長浜でフォーラム

専門家ら意見交換

長浜市の中心市街地を流れる米川に琵琶湖固有種のビワマスが遡上^{さくしやう}できるようになる環境づくりを考える「米川フォーラム」が2日、同市高田町のさざなみタウンであった。「米川と、ビワマスをはじめとした自然再生の可能性について」をテーマにしたパネルディスカッションで、米川の今や、ビワマスを戻すことに成功した野洲市の家棟川の取り組みなどが紹介された。

(松本芳孝)

パネルディスカッションでは、元県水産試験場長で現県立琵琶湖博物館特別研究員の藤岡康弘さん、家棟川の取り組みに関わった県琵琶湖環境科学研究センター専門研究員の佐藤祐一さん、昨春、米川でビワマスの稚魚を確認したNPO法人近江淡水生物研究所代表の向田直人さんがそれぞれの考えを発表。県立大環境科学部の平岡俊一准教授がコーディネーターを務めた。

藤岡さんは、昨夏に撮影した米川を泳ぐアユの群れの動画を紹介し「ビワマスが育つ環境は整っている。いるか、いないかだけなので生息調査が必要」と述べた。佐藤さんは「ビワマス

向田さんは「米川はビワマスが帰ってくるには小さな川。産卵場所となるふかふかな川底をいかにつくるかなどが大切」と語った。これに先立ち、ながはまアメニティ会議の松居弘次さんが1970年代に始まった米川の清掃などの市民活動を紹介。平岡准教授は

大学で2年生の必須授業となっている米川での活動を説明し、授業後も学生が長浜や米川と関わり続けるための仕組みづくりを課題に挙げた。

米川フォーラムは、長浜まちなか地域づくり連合会が取り組む「米川・かわまちづくり」の一環で、今回が3回目となった。

パネルディスカッションで2024年8月に藤岡さんが撮影した米川のアユの群れの動画が紹介された。長浜市で